

令和３年度 第４回飛騨市総合政策審議会 議事録

【日 時】 令和４年３月２２日（火） １３時００分～１６時００分

【場 所】 飛騨市役所 西庁舎３階 大会議室

【出席委員】 １８名中１０名

【執行部等】 都竹市長 湯之下副市長 沖畑教育長 齋藤会計管理者 泉原総務部長
藤井市民福祉部長 横山環境水道部長 野村農林部長 畑上商工観光部長
森基盤整備部長 中畑消防長 佐藤病院管理室長 野村教育委員会事務局長
岡田議会事務局長 大庭河合振興事務所長 田ノ下宮川振興事務所長 森田神岡振興
事務所長 上畑財政課長
(１８名)

【事務局】 谷尻企画部長 三井総合政策課長 土田係長 井口主査 上手主任（５名）

【傍聴者】 １名

【会次第】 １．開会

２．市長挨拶

３．会長挨拶

４．協議事項

①令和４年度当初予算の概要について …… 資料①

②令和４年度当初予算の編成検討資料について …… 資料②

③自由討議

５．その他

令和３年度飛騨市世論調査について

６．閉会

【議事内容】

１．開会【谷尻企画部長】

令和３年度第４回飛騨市総合政策審議会を開催する。

本日は８名がご都合により欠席であるが、委員１８名中過半数の出席により、飛騨市総合政策審議会設置条例第６条の規定により定足数に達していることを報告する。

２．委嘱状交付

今回、委員の交代があったのでご紹介する。３名が今回新たに交代された。時間の都合上机上配布をもって交付とさせていただく。

会長職務代理も交代となる。飛騨市総合政策審議会設置条例第５条の規定により、会長職務代理は会長の指名によることとなっている。

【会長】 I 委員にお願いしたい。

【谷尻企画部長】 I 委員よろしく願います。

3. 市長挨拶【都竹市長】

今年度4回目の総合政策審議会として、令和4年度の当初予算について委員の皆さんへのご報告とそれを受けての自由討議としている。3月18日に議会が閉会し、令和4年度予算がすべて全会一致での可決をいただいたの成立となった。来年度予算の準備を終えた感想として、今回の予算は市民の方々の声、そしてこの審議会での様々なご意見等を一つ一つ吟味しながら、今まで手が十分に届いてなかった部分に手を伸ばそうと議論し、新しい施策が数多く出てくるというよりは、一つ一つの施策を深掘りした予算になったと思っている。その分時間をかけて議論を行い、延べ27日間で86時間、計558事業の政策協議を行った。この審議会委員の皆様のご意見も、多くのものを事業化や来年度の検討で見込めるものになっており、意見対応一覧表の資料も本日配布しているので後程ご覧頂ければと思っている。令和4年度を迎えるにあたり、新型コロナのまん延防止等重点措置が3月21日で解除となり、制約のない状態になった。感染者がまだ高止まりの中、岐阜県も第5派の収束スピードよりも緩やかに減少しており、さらに、今回のまん延防止等重点措置の解除によって感染拡大の懸念もある。ただ今回の解除は今までと明らかに質が違っており、政府の方針がある程度社会経済機能を動かすことを鮮明にしている。従って飛騨市としてもこの令和4年度は、各種事業・イベント行事などは原則予定通りに開催する方針で向かっていきたいと考えている。あわせて考える必要があるのがワクチンと検査の体制であり、ワクチン接種も医師会の皆様方大変なご協力により順調に進み、接種率も県内の市の中ではトップを走っているのを、これをさらに進めて感染から身を守る体制を整えたうえで新年度を迎えたいと考えている。また、飛騨市は検査体制を整えてきた県内でも唯一の市であり、この辺りの強みを出しながら社会経済活動を回していくところにつなげていきたいと思っている。一方で、ウクライナ情勢にみられるように非常に国際的に様々な不安定要因があり、円安や物価高、燃料高、原材料高という中で迎える新年度となると思われる。成り行きによっては経済的に大きな被害が出ることもあり得ることから、非常に不安定な中で新年度のスタートとなるが、こうしたところに日々しっかり目を配りながら今計画している事業等はしっかり進めていきたいと思っているのでご理解いただきたい。

本日も長丁場になるかと思うが忌憚のないご意見、また様々なご提案等をいただきたい。

4. 会長挨拶【会長】

今年は雪が多く飛騨の方もうんざりしていると聞いている。私もふるさと種蔵村の副村長の役目として3月に棚田の雪庇落としのお手伝いに学生を連れて参加した中で、雪の量が多くどこが雪庇なのか分からない状態で苦戦しながらも、我々としては楽しく作業をさせていただいた。参加者も50人近くおられ、飛騨市の注目度の高まりやヒダスケを通しての関係人口の広がりを実感した。次の日はふるさと種蔵村の村議会を開催し、多くの方から楽しんで活動しているといったことやこれからも続けていきたいといった話を聞くことができ、今後もそういった方々と一緒に活動を続けていきたいと思っている。

本日は新年度予算の説明が主となるが、いつものように委員の皆様には忌憚のないご意見を頂きたい。

5. 協議事項

司会【会長】

【会長】 協議事項①令和4年度当初予算の概要について、事務局の説明を求める。

【土田係長】 協議事項①について説明。(資料①)

【会長】 協議事項①について、ご意見ご質問をいただきたい。

【E委員】 道路除雪サポーター制度の創設について、機械燃料費や除雪機購入の補助とあるが、自分の地域で大型除雪機が入らないところを個人でやっている方がおり、そういった取り組みに対する補助は考えているか。

【森部長】 今回の制度では市道でも家屋が少なく定期除雪の路線に入っていない箇所を、地域住民が除雪している場合、補助対象となる。

【E委員】 個人で除雪している方に対する補助はないか。

【森部長】 今回の制度は、個人の道ではなく公道を除雪する場合に燃料費相当を補助する制度であり、人件費相当分に対して補助するといった制度ではない。また、燃料費については公道を除雪した場合に補助対象となる。

【会長】 協議事項②令和4年度当初予算の編成検討資料について、事務局の説明を求める。

【土田係長】 協議事項②について説明。(資料②)

【会長】 協議事項②について、ご意見ご質問をいただきたい。

【会長】 協議の中で事業化に至らなかった事業案の数はどの程度か。

【土田係長】 数は把握していないが締切直前まで協議を重ね事業化させたものが多く、事業化に至らなかったものは一桁程度。

【H委員】 今回の政策立案の協議に関しては都竹市長の考えで進められたことであり、委員からの施策の要望はどこに関連してくるのか。

【都竹市長】 7月から8月にかけて各部局が最初に事業を企画する段階で、市民の方や議員からご提案があった事業の案を検討し、その後具体的な議論を重ねて深掘りしていく流れとなっている。

また、議会からは政策要望というものもあがってくるが、今年度は要望書が出てきたのが令和4年1月下旬だった。年度の後半であがってきた要望などについては来年度補正予算などで事業化していくこととなる。

【会長】 議会の要望も6月または9月議会のタイミングで出していただけると良いということか。

【都竹市長】 議長にも申し上げたが、時期として1月に要望を出されても対応が難しいので、できれば9月10月あたりに出していただけると事業化しやすい旨は申し上げた。今年はコロナで市民と議会との意見交換が大幅に遅れ、この時期になった事情があるので来年度はもっと早く出てくると思われる。

～ 休憩 ～

【会長】 会議を再開し、ここで委員の皆様から市に取り組んでほしい分野、事業、課題など、普段の生活でお困りのことも含め、会の代表のお立場でも一個人としても結構ですので、お一人ずつご意見を頂戴したい。

【A委員】 商工会議所の立場から協力させていただきたいこととして3点申し上げる。

1点目、「飲食・小売店における魅力的なメニュー・POP作成セミナーの開催」とあるが、世の中のペーパーレス化が進み、居酒屋や食堂のメニューをQRコードで読み込めるようにしたらどうかという提案を受け、会議所として取り組んでいこうと考えているので市からもバックアップいただけるとありがたい。

2点目、これまで人が集まることに規制がかかっていたが、その緩和に伴い商工会議所として新年度からイベントや講演の実施を考えているのでご支援・ご協力をお願いしたい。また我々も市にご協力できることがあればご協力させていただきたい。

3点目、「名古屋大学との連携による公共交通の共同研究」について、具体的な内容について伺いたい。

【B委員】 ロシアがウクライナを攻め世界的に流れが変わった。自然災害とは別の災害であり、日本でもあり得ない話ではない。一般の方の避難についても一度整理し、市民が認知していく必要があるのではと感じた。

人工芝のグラウンドを家族など少人数で借りたい場合でも、半日単位で6,000円かかり、広さも大きすぎるので、例えばスペースを4分の1に区切り短時間で1,200円程度で貸し出すなど気軽に利用いただける方法を検討いただきたい。

「事業者が実施するDX化の支援」とあるが今更感がある。2年以上前から言われていることであり、先に取り組んでいた事業者がやった損になるのでは。今後起こりうることに對して、一歩先の事業者支援をいただけるとありがたい。今年は宇宙事業という言葉をよく聞く。要するに宇宙旅行などであるが、これからの時代そういったことが可能になっていき、子どもたちへの宇宙に関する教育が必要になってくると思われるので、飛騨市には宇宙に関する研究施設もあるため、ぜひ一歩踏み込んで先に動いていただきたいと思っている。

観光協会としてはハイパーカミオカンデの建設に伴い労働者も入ってくるので、いかに飛騨市に宿泊してお金を落としていただけるか、また帰ってから家族で飛騨市に遊びに来てもらえるようなことを考えたいと思っているので、ご協力をお願いしたい。

【C委員】

米国の住宅建設ラッシュやロシアのウクライナ侵攻などの影響で今後木材の輸入が難しい状況になることが予想され、加えて令和3年からのウッドショックにより国産材も高騰し、今後さらに高騰する可能性がある。林野庁からも木材の生産性を上げるよう指令が出ており、物理的にはなかなか難しいと思っているが、今回のタワーヤードの購入にあたって支援をいただけたことに感謝申し上げる。

広葉樹のまちづくり事業について、全国の自治体が動き出しており飛騨市は先駆者としてさらなる期待をしている。

森林技術者の確保育成事業で非常に手厚い施策をいただき感謝申し上げます。しかしここ数年飛騨市出身の学生は入っておらず県外からが多い。なんとか市内の高校生に入ってもらいたいと思っているので我々も対応を考えていくがご協力をお願いしたい。「林業を分かりやすく伝える動画の制作」が新規事業としてあがっているが、組合としてもぜひ協力させていただく。動画のDVDなどができたらお貸しいただき、それを活用し募集活動させていただけるとありがたい。

薬草事業も拡充されているが、飛騨市は薬草の宝庫であるので強力に推進していただきたい。

【D委員】

学園構想について、各校で特色のある取り組みが出ており、いい方向に向いている。以前山之村の特産物販売が市役所であったが、地域の方が子どもに指導しているのを見て、地域の方が関わって子どもを育てる事こそがこの学園構想の本質だと思ったので、こうした取り組みを横へ広げていけるといい。毎回ウェブ会議の中身も濃くなっているが、学校職員の負担軽減の配慮もあわせてお願いしたい。

下呂中学校の最終下校時刻を早める取り組みが話題となっている。来年度からの取り組みで成果も課題もでてくるかと思うが、働き方改革としていい取り組みだと思うので、教育委員会主体で学校職員のために検討いただけるとありがたい。

E d o（エドゥー）がソーシャルビジネス事業でかなりのお金が集まっていると認識している。学園構想でもお金を使っていると思うが、市との連携や学園構想以外の部分の取り組みについて伺いたい。

「子ども達のスケートボードエリアの整備にかかる検証」とあるが、今年スキー場へ行くとボードをしている子どもが多かった。スキー場にハーフパイプみたいなものを小規模でも設置できるのではないのか。奥美濃のスキー場では駐車場に1,000円とるが飛騨市はとっていない。立地条件がいいのもあるが、そういった運営の部分も検討いただきたい。

- 【E 委員】 コロナの前は会議後などに集まって飲食を行っていたが、今は全くできていないのが現状。冒頭の市長挨拶で行事やイベントなどは例年のように行っていきたいとお話しされていたが、集会時の飲食についての見解を伺いたい。
- 農業の後継者が不足している中、どの程度の作付けでどれくらいの収入を得られるかといった農業所得の詳しいシミュレーションが分かる図のようなものがあると説明しやすく、理解してもらいやすいため作成をご検討いただきたい。
- 「農地の貸し借りの見直しに関する周知啓発」とあるが、より詳細な内容を伺いたい。
- 【F 委員】 現在まちづくり拠点 node（ノード）には、月に 40～50 件程度の相談などがある。その相談に対して自分だけしか対応できていないのが現状で、今後の体制を考えていくうえで、相談者と事業者や市役所を繋げることができる相談員の育成が必要であると感じているので、各部署の皆様にもご協力いただきながら勉強させていただけたらと思っている。
- まちづくりの中間支援組織について、もともとあったまちづくり協議会がひだプラスに名前を変えて活動してきたものが発展的解散をし、次の段階に進んでいく形になると思っているが、次の段階としてどんな活動をしていけば飛騨市のためになるか考え、不安に思っている部分がある。node でこれまでのひだプラスの機能を担っていく話は伺っているが、利用者の方は主に個人の方で、その個々の活動をサポートしている感覚があるので、中間支援組織とはまた少し違うと感じている。ただ、今後は市民同士や関係人口の方も含めてのまちづくりとして、繋がりが重要になっていくと思っているので、今後の飛騨市のまちづくりやその中間支援の部分について一緒に考えていただけるとありがたい。
- 【G 委員】 コロナ禍において、オンラインの会議や研修が浸透し便利になった反面、地域の行事や集会がほとんどなくなったことで、自然と人と触れ合う機会が減り、地域の情報が入ってこなくなったと感じている。オンラインでは遠くの意識した相手とつながることができるが、逆にこれまでは無意識の中で繋がっており、そういった交流がなくなっていたのだと実感した。新年度以降こういった機会も徐々に回復していくことを期待している。
- 外国人材の活用として、技能実習生や E P A 介護福祉候補者（日本で就労と研修をしながら介護福祉士の資格取得を目指す外国の方）を受け入れている中で、家族を日本へ連れてこっちで仕事をさせたいといった要望を聞くようになってきた。そのために必要な手続きなどが見えてくると外国人材の長期間勤務や定住に繋がると思うので、そういった部分も市と協力しながら一緒に模索していきたいと考えている。
- マイナンバーカードを使いコンビニで住民票を取ろうと思ったが、飛騨市は対象外だった。マイナンバーカードを持つメリットには手軽に住民票の取得が可能といった面もあると思うので、飛騨市でも検討いただきたい。

【H委員】 学校で新型コロナ感染者が1人出た場合の飛騨市の対応が、高山市と異なっていると感じた。感染拡大を防ぐために様々な対策を行っていると思うが、高山市は感染者が出た学校を公表しているのに対し飛騨市は公表していない。どちらが悪いという事ではないが、なぜ対応が違うのか教えていただきたい。

【I委員】 防災ハンドブックを作成されるとのことだが、まず災害が起きた場合に区が行う対応として公民館での避難所開設があり、現在のコロナ禍で密集することが難しい中、どのように避難所を開設するのがよいかなど、立場に応じたマニュアルがハンドブックに掲載してあるとありがたい。また、防災訓練を実施する側、受ける側両方のマニュアルもあるといいと思った。

杉崎公園など子どもたちの遊び場の整備は大変ありがたい。ただ、雨天時に遊べる場所が少ないように感じており、ハートピアにあるちびっこランドは15時までしか利用できず、15時以降に保育園から帰って遊べる場所がないため、国府まで行っているという話を聞いた。市内にも遅い時間まで利用できる施設があると保育もしやすく横のつながりもできるのではないかと思った。

また、保育園へ行っていない0～1歳の子どもを育ててみえる方が、少しだけ子どもを預けて買い物などに行ける施設や支援があったらいいということも聞いたのでご検討いただきたい。

【会長】 市長からご意見を伺う。

【都竹市長】 A委員の話で、飲食店のメニューをQRコードで読めるようにすることはとてもいいことだと思うので、また具体的な話を商工課の方で伺いながら、市としてバックアップしたい。

それからイベントや講座を今後実施していくとのことだが、基本的な感染対策は前提として、これから大事になるのはワクチン3回目の接種証明と検査の組み合わせで、政府からもワクチン検査パッケージ制度として特に地方自治体での取り組みを推奨すると言われている。まちなか簡易検査センターを神岡にも設けており、事業所単位でのキット購入支援もあるので、それらをうまく使っていただきながら取り組むことになると思うが、そうした具体の手法がはっきり政府の方で示されてきた段階を踏まえ、また共有・周知していきたいと思っている。

公共交通の名古屋大学との連携については、名古屋大学と協定を結び、名古屋大学で雇用した公共交通専門の研究員が月の3分の1ほど飛騨市に滞在して、飛騨市の公共交通の見直しを中心となって取り組んでいただく事業。神岡・猪谷線や神岡から古川へ行くルート等の改善や、山之村での貨客混載モデルの検討など、名古屋大学の研究員の方々と一緒になってやっていくこととなる。また、名古屋大学に市の職員を数回短期派遣することとしており、様々な公共交通会議について歩いて、議論の内容などを聞きながら勉強してきてもらうことも考えている。

B委員のお話で、戦争など有事の場合の避難は想定がしにくく、対応準備が万全ではないのが現状。北朝鮮がミサイルを打ち、落下物があつたときにどう対処するのかなどの周知を行うことも想定されるが、普段の生活の中での対策があるわけではないので、呼びかけの仕方やタイミングなど一度研究してみたいと思う。

芝のグラウンド利用について、休日は現在もよく試合などで使われており、平日をどのような形で解放できるか検討しているところ。そうした中で遊び場としてや場所を区切ってなど、一般の方への貸し出しがどの程度できるかもあわせて考えたい。

D Xについては2年前から取り組み始めており、D Xといっても今ある仕組みをどう活用するかという考えを基本とした講座を実施し、それぞれの会社での活用方法を検討いただくやり方で進めている。こうした講座を継続しながら、その中で具体的な支援策や補助が必要な場合には柔軟に対応していきたいと考えている。

宇宙教育について、飛騨市には宇宙物理学研究の拠点施設があり、そのアウトリーチの施設としてカミオカラボもあるので、こういった地元の施設を活用し、子どもに対し宇宙への関心を向上させる取り組みも検討していきたい。

ハイパーカミオカンデの関連について、ハイパーカミオカンデの計画推進期成同盟会を作っていたいただいており、いかにして地元にお金を落としてもらうかの取り組みを展開している。現在も観光協会にご協力いただいております、引き続きよろしく願います。

C委員からのお話で、木材の高騰により国産材の生産を増やすよう国から言われていることに対し、現場がすぐに対応できるわけではないことも承知している。生産性の向上が不可欠な中、タワーヤードを2台導入したことで飛騨市森林組合として生産性が高まることは非常に嬉しく思っている。この辺りは生産性向上の流れに乗り、今後国産材を増やしていくための様々な支援を、全国市長会等でお話しできる機会も活用しながら、森林環境譲与税とは別枠に公費で設けてもらうようなことを要望していきたいと思っている。

林業を紹介する動画の作成にあたっては、大いに連携させていただき、計画の段階からまたよくご相談させていただきたい。また、学校の先生含め、森林技術者の仕事のイメージが湧かない方も少なからずいるので、まずは仕事内容を知ってもらう部分を市としても大きなテーマとして引き続き取り組んでいく。

D委員からのお話は後程教育長からもコメントをいただくが、学園構想については山之村小中学校の事例のように、子どもたちが地域と一体になって地域課題を自分たちのこととして取り組んでいくことが大事なポイントの一つだと思っている。今年度、各学校非常にいい展開をしていただいております、2月25日にあつた学園構想成果報告会も大変すばらしいものだったので、引き続き進めていきたい。

学校の教員の負担については次のE d oの話にも繋がるが、すべて教員が実施するのではなく、地域の方々や企業が委託先として主体的に動く中で連携していくことで、教員の負担を下げつつ内容を充実させていきたい。

E d oについて、私は市の事業をすべて市が実施するのではなく、パートナーになれる企業があれば委託して、役所や学校の外で事業を実施していただくことが非常に大事だと思っている。近年はパートナーになっていただける地元の若い企業が生まれており、そういった企業と連携しながら進めている事業もある。E d oもその一つで、そうした企業に仕事をお願いしたり連携していくことで新たな雇用にもつながり、安定的に連携できる提携先作りを進めている。なおかつ現在ふるさと納税の枠組みを活用し、企業が行う課題解決事業に対し支援する制度を設けているが、E d oから学生向けに社会の課題解決の塾を作る事業の提案があり、彼ら自身でお金を集めて独自で展開される事業となる。当然、飛騨市学園構想のコンセプトと一致している事業であるので、E d oが取り組む事業ではあるが市の学園構想の事業であると位置付けており、そういった考え方の中で連携しながら取り組んでいきたい。

スケートボードの件も様々なご意見をいただいております、スキー場への小規模のハーフパイプの設置要望もある。確かに今大きなムーブメントの中にあるので、郡上の例など勉強しながら、整備の可否や費用面など指定管理者と一緒に前向きに検討していきたい。

E委員のお話で、集会時の飲食については密集密接での飲酒となるのでやり方が非常に難しいところではあるが、なるべく広い会場で換気をしながらマスク会食を徹底するということに加え、事前に検査をしてから参加してもらうなどの対策はまだ必要だと考えている。ただ、可能なら中止するのではなく、やれる方法を模索し実施していきたいというのが基本的な考え方であり、折詰の仕出し屋や酒小売が厳しい状況であることも踏まえ、ある程度地域経済を動かしていただければと思う。具体的な実施方法については、市でも相談に乗らせていただく。

農業後継者の所得と生活のイメージは非常に大事な部分だと思うので、新規就農者の募集を行う中で、ガイダンスやパンフレット、ホームページなどにおいて、どのように表現できるのか検討させていただく。

農地の貸し借りの見直しに関する周知啓発の詳細については後程、農林部長からお話しさせていただく。

F委員のお話で、現在n o d eは我々が当初想定した以上に利活用いただき、さらに子どもの利用が多いのは良いことだと思っている。相談員の育成についてはn o d eで様々な相談を受けていただく中で不可欠なので、情報交換させていただきながら必要な支援や対策等をまた相談させていただきたい。

中間支援組織について、ひだプラすは一応発展的解散の形になっているものの、団体と団体の繋がり作りに関しては課題として残っている。お互いを知る機会を作ることが大事だと思っており、これについてはコロナ禍でなかなか行事ができていない事情があるにせよ、やり方はあると思うので、市でも実施方法などよく考えたい。

G委員のお話で、確かに集まる機会が減ったことで普段意識していなくても入ってくるような情報が入ってこず、人の消息も分からなくなっていることはある。ただこれは人為的に機会を作るのは難しく、感染が落ち着き、様々な行事を前に進めていく中で自然と戻ってくるものだと思っている。

採用している外国人材の方から家族を連れてきたいという話があることに驚いたが、就労ビザや住居、生活含めてサポートが必要で、確かに定住に繋がることもあるので、商工課で行っている在住外国人、外国籍市民の支援に加えて、どんなサポートができるか早速検討したい。

住民票のコンビニ交付について、この構想は以前より議論しており、都市部のように利用が多ければいいが、飛騨市で導入するにはあまりにもコストパフォーマンスが悪く見送っている。要望があることは承知しており、何度も議論を行いそのたびに見送っているのですが、今後も引き続き検討していくが現状では難しいということでご理解いただきたい。

H委員のお話で、教育長から後程説明いただきたいと思うが、基本的には高山市と感染者の公表の対応は変わってはいない。感染した時のお子さんの状況次第でどこまで周知するかの問題だと思っている。

I委員のお話で、防災ハンドブックについて区長向けのマニュアルをつくったらどうかということだが、区長の方々は年単位で変わるので、変わった際に研修などでどうフォローしていくかが問題だと思っている。ここは一度改めて現状を把握したうえで、区長が変わらなくても毎年早い時期にそうしたフォローをしっかりとやっていきたい。コロナ禍での避難については、避難所へ行かなくても安全が確保できるなら問題ないというのが基本的な考え方であり、そのうえで避難所へ避難する必要がある方がおられる場合に、寝るときは頭と足を互いにあわせるなどの感染対策の周知をしていく。ハザードマップに関して、飛騨市は同じ区の中でも土砂災害や水害のリスクが異なっているので、避難指示を一律ではなく、より詳細な班や組単位で出すようにしており、区長の方と連絡を取りながら決めている。そうしたことを区の幹部の方々にもご承知おきいただくことが重要なので、啓発方法など改めて点検をして共有させていただく。

雨天でも遊べる場所について、全天候型の遊び場の確保は飛騨市も大きなテーマであり、既存の施設を活用し遊べる場所の確保ができないか検討してきたが、現在古川駅東開発の中に子どもの遊び場の建設も含まれているため、市が無理して作って競合してもいけないので様子見している。ただ、ちびっこランドの開設時間については利用者の意見を聞きつつ柔軟に見直していきたい。未就学児についてはちびっこランドの他にも短期で預けることが可能な施設などがあるので、このあたりは後程、市民福祉部長より補足いただく。

【沖畑教育長】 D委員のお話で、学園構想については無理のない範囲で教員の方々にやっていただいております、負担になっているといった声はなく、逆に子どもたちが積極的に考えて動いているのが面白くて仕方がないといった感想もいただいている。また、地域の方も初めは前に出ることに躊躇しているようだったが、最近は一生涯懸命いろんなことを考えてくださる方も増えてきたので、今後さらに横に広げていきたい。

E d oについて市長からも話があったが、学校の授業で課題解決学習を行っており、そのことをさらに深掘りしたいという子どもたちのための場所を作るという話を聞いている。

H委員のお話でコロナに関する公表については、飛騨市ではコロナウイルス感染症発生時における県の方針に基づいて公表している。詳細には、他の児童生徒への感染の可能性があり、感染拡大防止のため学級閉鎖等を実施する場合には、関係者の不安軽減と、諸機関による検査が適切に行われるために、学校名を公表している。学級閉鎖する条件としては感染者が複数名発生した場合や1名でも濃厚接触者が多数いるといった感染の拡大が懸念される場合という県の方針に従っているため、長期休暇時に1名程度子どもの感染者が出た際は学校での感染拡大の心配がなかったため公表していない。まん防期間中は県の方針で1名感染者が出れば学級閉鎖ということになったため市でも同様の対応とした。ただし、公表しても感染拡大防止にはつながらないため、ホームページ等で公に発表する必要はないと考え、当該学級や関係する学年等の保護者にメールで発信をした。実際飛騨市における子どもの感染者数は少なく、クラスで1人発生しても、そこから広がった例もまだない状況である。

【H委員】 実際子どもから子どもへの感染は起こりうることであり、現在の飛騨市のスキームでは感染者が出たクラス以外の方はほとんど知らないことになるので、それでは感染リスクが高まってしまうのではないかと。

【沖畑教育長】 感染者が学校以外で遊んだ時などにうつる危険性については、保健所で濃厚接触者を調べて学校でも把握できるようになっているため、該当する方に対して個別に連絡が可能。

【H委員】 感染源の特定ができないので不確定ではあるが、子どもが学校以外で感染し、その両親にも感染した事例があったので、陽性者が出た学校名は公表したほうがいいのではないかと。高山市は公表している。

【沖畑教育長】 学校名を公表することで感染拡大を防げるかは疑問があり、個人が特定されない限り感染防止対策を考えることは難しいと思っているので、学校名の公表は必要に応じてさせていただきたい。

【都竹市長】 学校名の公表は基本的に県の考え方に沿っており、もともと濃厚接触者で何日も学校に行っていない生徒が発症した場合など学級閉鎖に至らないケースもある。高山市が

同様のケースをどのように扱っているかは承知していないが、今の県のルールとしては公表の対象ではないため市としても公表していない。感染防止のために発表する必要があるかについては、初期は警戒のために感染者数や年代を発表していたが第6波になってからはこういった発表が感染予防に直結しないと感じている。学校については感染の危険性があるクラスには個別に連絡しているところだが、それ以上の特定はなかなか難しいので、市としての公表は県のルールに沿って実施し、個別に必要なところには注意喚起する形で実施するということでご理解いただきたい。

【野村部長】 農地の賃借料については、現状米を作る目的で農地を借りた方が土地代を支払っている状況となっているので、改良組合など様々な会合の場において基本的に農地の賃借料はとらない方向で農家の代表組織の方からお伝えしている。ただ、中には少額でも払った方が様々な面でやりやすいといった声も聞くので、見直しをかけていきながら積極的に周知していきたいと考えている。

農地の管理について、過疎や高齢化が進み農地の管理が課題となっている中で、草刈りの負担軽減ができるよう道路に隣接した法面や畦畔は地主にお願いしたり、地域で共同体を作って国の交付金を活用する取り組みなどを考えている。しかしながら人数自体が減っているので圃場整備を進めており、令和3年度の秋に是重地区での土地改良が着工し、その後は杉崎でも計画が出ているので農業構造の改善も進めていく。

【E委員】 賃借料については改良組合に周知しているとのことだが、農業委員はどうか。

【野村部長】 古川町の改良組合長会で説明させていただいた。農業委員にも合わせて周知を徹底していきたい。

【藤井部長】 I委員のお話で、未就学児を短時間預けておける施設があるとよいとのことだが、市ではファミリーサポートセンター事業として、一時託児を民間のスマイルキッズにお願いしている。子どもを預かる施設もあるが利用者のご自宅にも訪問できるので、ご利用を希望される場合などは子育て応援課へお問い合わせいただきたい。

【会長】 私からもコメントさせていただく。

まちづくりの中間支援組織として適切に助言するには情報量が必要であり非常に難しいこと。県内でもそういったことがしっかりできている団体は少なく、課題だと感じている中で他地域のまちづくりの事例などを情報交換することは非常に重要だと思っている。

災害時の避難について、県や市が避難所運営のマニュアルやガイドラインを出しており、そこにコロナへの対応も書かれているが、ベースの方針として一人一人がケースごとにどのように避難するかの計画を立ててもらおうよう、県全体として岐阜大学と連携しながらやっている。そうした中で多くの事業者が個別避難計画を作成していることは承知しているが、さらに進めていくために防災士など知識を持った方々と連携し

ながら地域ごとに独自の防災対策を考えたりして、地区防災計画の作成をしていただけると I 委員がお話しされた不安も解消できると思う。自分に関わっている清流の国ぎふ防災・減災センターでサポートする体制もあるのでご検討いただきたい。

何か質問等はあるか。

【A 委員】 当初予算のポイントの 16 ページ「子どもたちのスケートボードエリアの整備の検証」の中に市内 4 箇所で開催とあるが、どこでやるか分かれば教えていただきたい。

【野村事務局長】実証実験をするのは、神岡町と古川町で 2 箇所ずつとしており、神岡町は夕陽ヶ丘の駐車場と旧東小学校の裏、古川町は西小学校の体育館とさくら保育園の間と、宮川のヘリポート付近を予定している。実際そこでスケボーをやってもらったときの音の反響などを確かめ、苦情が出そうか見極めたいと思っている。

【A 委員】 商工会議所はまちづくりにも関わっており、その一環として、あくまでも私個人の提案としてお聞きいただきたいが神岡の横山トンネルの旧道が国交省から市に払い下げてあるとのことで、スケートボードエリアの整備に活用できないか、案としてご検討いただけるとありがたい。

また、船津割石トンネルが完成したら 41 号線の旧道が払い下げられると思われるが、商工会議所としてあの道をどう活用していくか検討しており、市に払い下げられた後の活用を提案したいと考えている。

【都竹市長】 スケートボードの件は 9 月議会で複数の議員から質問があり話題となったが、そこまでのニーズがないと思っており、あまり深く取り組んでいなかった。河合の羽根体育館に民間でスケートボードパークが設置されているが、改めてアンケートを取ると身近な場所でやりたいといった意見が多かったため、町中でのスケートボードエリア整備の検証として、最大の課題である騒音が実際どのくらい出るのかなど近隣への影響を調査したいと考えている。そうした中で横山の旧道にスケートボードの整備を考えた場合、想定される利用者や利用方法の見極めが重要であり、遠くから人を呼び込む場合のニーズの把握などがテーマとなる。まずは身近な所として町中からのスタートであるが、旧道の方も頭に留めておき、活用できるか考えてみたい。

船津割石トンネル完成後の旧道の活用について、市ではまだその議論に至っていないが除雪の絡みもあり難しい問題だと思っている。どうしても人が通る必要がある道路は除雪をするが、そうではない道路に市は除雪費用を出せないため、その辺りの対処法や管理など、前広に議論させていただき、解決方法を考えながら旧道の活用について考えていきたい。

【会長】 それでは、協議事項は以上となる。司会を事務局にお返しする。

6. その他

令和3年度飛騨市世論調査について説明。

7. 閉会【湯之下副市長】

委員の皆様には本日も長時間にわたり貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

こういった場や普段から市民の皆様から様々なご意見を頂きながら政策を打っていくわけであるが、当初考えていた政策から、意見を頂きながらさらに調べていくなかで新たな気づきが出てくるという事を感じており、調べる努力を政策が出来上がる直前まですることが大切だと思っている。

毎回お願いしていることであるが、今後とも委員の皆様にはそれぞれの立場からあらゆる情報、あるいは提言をいただけるとありがたい。

それでは本日の会議を終了する。